記　入　日　2018 年　1 月　15 日

1．概　要

実践団体名	高知市立南海中学校		
連絡先	０８８－８４２－３２９１		
プランタイトル	まもれ　高知（ふるさと）　Nankai　Survival　Project(NSP)		
プランの対象者※1	幼児・保育園児・小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・地域住民・高齢者	**対象とする災害種別**※2	地震・津波

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し，記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し，記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

防災教育に地域活性化を位置づけたことがポイント。次の南海トラフ大地震で甚大な被害が予想される校区は，人口減少も顕著である。この地域のピンチを，チャンスに変えるために，「地域の絆は，防災の力」をキャッチフレーズに，中学生が伝統行事や祭りを担って地域の絆を深め，同時に災害への備えを地域にひろめている。その手法は，生徒が「笑い」を交えて演じる「防災にわか」（高知県保護無形民俗文化財である佐喜浜にわかを模したもの）や，津波避難場所マップなど。さらに今年は，これまでの地域での活動（学外）を活かした学内の防災授業の充実にも挑戦した。

【プランの概要】

○　「地域の絆は，防災の力」プロジェクト：中学生が地域の伝統行事を担う。町おこしの祭りや福祉施設の行事にも参加して，地域の絆を育み，地域を元気にする。

○　「いつでも防災」プロジェクト：ユーモアあふれる寸劇で防災意識を高めてもらう「防災にわか」を中学生が熱演。また，防災を意識づけるグッズを作成して，地域イベントで販売や配付。防災を日常にする取組みを展開。

○　「校区一斉津波避難訓練」プロジェクト：中学生が校区の津波避難マップを作成し，住民に発信。校区一斉津波避難訓練を地域とともに企画・運営する。授業では，マップを活用した図上津波避難シミュレーションを今年初めて実施。

○　中学生と自主防災組織との協働的活動で，これまでバラバラだった自主防災組織を相互につなぐ。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

○　中学生が地域で活躍すると，地域に深い絆と活力が生まれ，地域全体が元気になる。

○　バラバラだった地域の自主防災組織が学校を核にして横につながり，連合会が結成されるきっかけとなったように，地域全体の防災力・防災意識が向上する。

２．プランの年間活動記録（2016 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	どろんこ祭り 津波避難場所の調査		どろんこ祭り参加 津波避難場所の現地調査（自主防災組織と合同で）
5 月	長宗我部まつり 津波避難場所マップ作成	防災フェア実行委員会 防災フェアちらし作成	長宗我部まつりにおいて，防災にわか披露と吹奏楽発表
6 月	津波避難場所マップを地域･保育園児・小学校児童に配付 防災フェアちらしを地域配付	防災フェア実行委員会 防災フェアちらし配付	防災フェアちらし作成と配付 津波避難場所マップ作成と地域・保育園児・小学校児童に配付
7 月	防災フェア 要支援者の聞き取り調査 図上シミュレーション		防災フェアの実施 要支援者（視覚障害者）から，避難に際する課題を聞き取り調査 図上シミュレーション避難訓練の授業を全学年で実施
8 月		校区一斉津波避難訓練事前打合せ	地域の会合で校区一斉津波避難訓練の説明を実施 津波避難場所の整備（自主防災会との合同作業）
9 月	校区一斉津波避難訓練 要支援者の自宅検証	校区一斉津波避難訓練反省会	全校生徒が参加して，校区一斉津波避難訓練を実施 要支援者（視覚障害者）の自宅を訪問し，耐震等の調査を実施
10 月			
11 月	校区防災講演会 防災朝食	実行委員会形式で	佐藤敏郎先生の講演会「小さな命を考える」を実施 防災朝食（ふれあい食堂）を実施
12 月	地域探訪 避難経路の点検講習 避難経路の点検実施 要支援者の個別避難訓練		1 年生が地域探訪を実施。地域のよさを学ぶ機会に。 高知市から避難経路の点検講習を受ける 自主防災組織とともに避難経路点検を実施 要支援者（視覚障害者）の個別避難訓練を実施
1 月	ぼうさい甲子園表彰式	平成 30 年度防災フェア実行委員会	ぼうさい甲子園において，防災にわかを披露 市民防災講演会（主催：高知市）において，防災にわかを披露
2 月			高知竜馬マラソンにおいて，防災啓発チラシ（津波避難所マップ）の配付
3 月	保小中合同避難訓練及び小学校での防災学習成果発表会		保小中合同避難訓練及び小学校での防災学習成果発表会

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　１　】※3

タイトル	防災フェア
実施月日（曜日）	7 月 8 日（土）
実施場所	高知市立南海中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：永原　潤一 所属・役職等：高知市立南海中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前中　４時間
プログラムの　カテゴリ，形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	地域の防災意識を高めるために，地域と中学生が一緒に訓練する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○　自主防災組織と中学生による防災フェア実行委員会の結成 ○　防災フェア実行委員会での実施に向けての協議 （地域住民の希望訓練内容の把握，訓練内容の打合せ） ○　中学 3 年生による関係諸機関・協賛企業との訓練打合せ ○　関係機関と中学 3 年生による各種訓練の運営
準備，使用したもの・人材・道具，材料等	○　実施要綱の作成 ○　防災フェアのチラシ作成と地域への配布 【協力関係機関と協賛企業】 高知県警察・自衛隊・日赤高知県支部・高知市防災対策部・高知市消防局・ホームセンターハマート横浜店・国土交通省四国整備局高知河川国道事務所・久保建設株式会社・ミタニ建設工業株式会社・ジョウトク建設株式会社
参加人数	中学生 190 名　幼児 50 名　小学生 50 名　地域住民 50 名
経費の総額・内訳概要	チラシ印刷代　43,843 円
成果と課題	【成果】 昨年度から地域との共催行事にしたことで，住民の希望に添った訓練を新たに実施することができた。スタンプラリーや参加賞をかまえたことで，イベントとしての付加価値も高まったと感じている。 【課題】 まだまだ住民の参加者数が少ない。さらに地域の要望に応えられるイベントへと価値を高めたい。
成果物	防災フェアのチラシ

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1 つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し，記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し，記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	南海中学校区一斉津波避難訓練
実施月日（曜日）	９月３日（日）
実施場所	校区内津波避難場所（３１箇所）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：永原　潤一 所属・役職等：高知市立南海中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前中３時間
プログラムのカテゴリ，形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	在宅時の津波避難への意識向上と避難行動定着のための避難訓練
達成目標	地域住民と協力して，在宅時の津波避難の訓練を実施する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○　自主防災組織との事前打合せ ○　自主防災組織と避難場所リーダー（中学生）との打合せ ○　地域での避難訓練の啓発活動 ○　避難訓練の実施 ○　自主防災組織との反省会
準備，使用したもの ・人材 ・道具，材料等	○　校区津波避難マップの作成と地域配布 ○　実施要綱 ○　避難者受付名簿 ○　避難訓練参加者の統計資料
参加人数	約 700 名
経費の総額・内訳概要	校区津波避難マップの作成　100,000 円
成果と課題	【成果】 中学生は全員が非常持出袋を持参して，自宅から避難訓練が実施できた。また，中学生と自主防災組織が連携することで，地域の防災文化の継承や，次世代の防災リーダーの育成に寄与できた。 【課題】 訓練開始の防災行政無線が鳴らなかったことで，目標にしていた地域住民の参加人数が達成できなかった。また，避難場所に避難した後の訓練内容の充実が必要である。(トイレの設置訓練や炊き出し訓練など)
成果物	南海中学校区津波避難マップ

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1 つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し，記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し，記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	南海中学校区防災講演会
実施月日（曜日）	１１月１２日（日）
実施場所	高知市立南海中学校　体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：佐藤　敏郎 所属・役職等：ちいさな命を考える会　代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:30～12:00
プログラムのカテゴリ，形式※4	講演会･シンポジウム
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	地域住民と協力して，防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○　自主防災組織との事前打合せ ○　地域での講演会の啓発活動 ○　講演会の実施 ○　自主防災組織との反省会
準備，使用したもの ・人材 ・道具，材料等	○　講演会のポスター・チラシ作成と地域配布 ○　実施要綱
参加人数	約 700 名
経費の総額･内訳概要	講師謝金　54,000 円
成果と課題	【成果】 佐藤先生の交通費を自主防災組織が負担するなど，運営面だけでなく，金銭面においても協力して実施することができた。講演内容も素晴らしく，地域の防災意識の向上に役立った。 【課題】 本校生徒，教職員以外ではおよそ 100 名の参加があったが，まだまだ想定していたほどの参加者がなかったことが残念である。今後も，参加者増加に向けてチャレンジしていきたい。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1 つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し，記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し，記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	昨年度までの取組みで，校区一斉津波避難訓練や防災フェアなどのイベントが充実してきたが，参加者が頭打ちであった。 この課題の解決をはかり，イベントや訓練への参加者数を増やすことで，校区住民の防災意識を高めるプランにすることが必要であった。 中でも，校区全体の防災意識を高めるにはどうするのか･･･という点で苦労した。そこで，まずコミュニティの再構築を目指して，『地域の絆』づくりに取組む作戦を立てた。「地域の絆は，防災の力」というキャッチフレーズを決め，防災活動だけでなく，様々な地域行事に中学生が関与することで，地域の絆を深め，地域を活性化することを目指した。 このきっかけは，防災教育チャレンジプラン実行委員からの「守るのは，生命だけか？」との問いであった。防災教育だけにとらわれずに，地域活性化を含む大きな取組みとしたこと，「守るべきは未来の生命だけでなく，今ある地域の絆」としたこと，これこそが最大の工夫であり，わたしたちの活動の出発点になった。
準備活動で苦労した点工夫した点	地域との連携の中で，いかに住民の防災意識を高める活動を仕組んでいくのかということが，最大の苦労であり，最も工夫した点でもあった。 まず，実のある連携にするために，『南海中学校区地域校園協働会議』を組織した。この会議に，各地区の自主防災組織の代表，校区の保育園・小学校・中学校が参加するようにしたことで，校区全体を網羅する防災活動の協働体制を構築した。 こうしたことで，地域が抱えている現実的な課題がリアルタイムに学校に寄せられるようになった。その一例として，避難要支援者（視覚障害者）への手立てを手伝ってほしいといったことがあった。最近では，行政機関からも協力依頼を受けるようになり，今年は，高知市が進める津波避難計画の見直し作業にも協力した。アンケートの回収や避難経路の検証など，中学生ができることは多かった。 このような要望に応えるには，しっかりとした校内の教員組織と生徒組織を作る必要があるので，NSP 実行委員会を特別部活動にするとともに，教員は防災教育部会を組織した。部活動にすることで，土日の活動にも臨機応援に対応できるようになり，教員が部会を使うことで役割分担が明確になり，個々の教員の負担も軽減できるようになった。
実践に当たって苦労した点工夫した点	実践においては，学校が地域の現実的な課題や要望にまず耳を傾けることで，独善的で，ひとりよがりの防災教育から，地域に必要とされ，地域の課題を解決できる防災教育に脱却しようと考えてきた。 例えば，校区の津波避難場所マップを作成するにあたっても，地域の自主防災組織と一緒に現地調査をすることで様々な発見があがった。一例を挙げると，地名には地域独自の呼び名があり，その方が圧倒的に多くの住民に受け入れられているが，これまでのマップは行政が使用する呼称で標記していたので，「どこの場所を指しているのか分からない」といった指摘があった。さらに，標高を加えてほしいという要望もあった。 そういった生の意見を聞いて，表記を年々改訂することで，より地域に必要とされるマップへと生まれ変わっている。 こういった些細なことでも，地域との距離を埋め，地域全体の防災意識の向上をはかるには，学校側が地域の意見を真摯に聞き入れる柔軟な思考と実践が必要である。 このように，地域の課題を解決できる防災教育であること，防災活動は地域全体で行わなければ効果を生まないことを念頭に置いた実践に努めてきた。

５．他の団体，地域との連携

協力・連携先の分類	団体名，組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	南海中学校区保小中連携協議会 南海中学校区地域校園協働会議	校区一斉津波避難訓練 合同避難訓練 防災学習成果発表会 防災フェア すべての地域行事
保護者・ＰＴＡの組織	南海中学校 PTA	防災フェアの実施
地域組織	長浜・御畳瀬・浦戸地区　自主防災連合会傘下の自主防災組織（およそ 50 団体）	防災フェア実行委員会 校区一斉津波避難訓練（事前打合せ・反省会を含む）
国・地方公共団体・公共施設	高知県警察・自衛隊・日赤高知県支部・高知市消防局・消防団・高知市防災対策部地域防災推進課 高知市市民協働部コミュニティ推進課 長浜，御畳瀬，浦戸の各ふれあいセンター	防災フェアの訓練協力 校区一斉津波避難訓練（事前打合せ・反省会を含む） 地域の祭り等の諸行事
企業・産業関連の組合等	ホームセンターハマート横浜店	防災フェアの協賛企業
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	高知市社会福祉協議会	地域の敬老会等との連携
職業，職能団体・学術組織，学会等		

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	中学生が地域の伝統行事や祭りを担い，率先して地域の防災活動を行うことで，地域住民は学校や生徒への信頼を深める。生徒は，大人に認められたり，地元の安全や防災に懸ける大人の情熱に触れたりすることで，ふるさとへの愛着が沸いてくる。 これらの相乗効果で，本校の防災教育が，学校のひとりよがりなものから，地域の課題を解決する協働的な防災活動へと進化してきた。 また，中学生と自主防災組織が協働的に地域の防災活動を推進することで，学校と地域はもちろん，地区ごとで活動していた自主防災組織のさまざまな活動が横へとつながり，面となって，校区全体の自主防災組織や防災活動が活性化するという効果もあって，新たに防災連合会が結成されたことは大きな成果となった。 さらに，今年行った防災講演会では，東北から講師をお招きするにあたり，経費が膨大になることから，防災連合会が旅費や広告費を，学校が講師謝金を負担しあうことで，実施にこぎつけ，協働で運営した。このように，地域の「人・もの・金・情報」などが集約されはじめ，地域の防災力が確実に向上していると感じる。
全体の反省・感想・課題	校区一斉津波避難訓練の際に，訓練開始を告げる防災行政無線がならなかったハプニングがあり，残念ながら参加者は昨年度から減少した。しかし，「防災フェア」の一般参加者が大幅に増えるなど，確実に防災文化が地域に浸透しだしたことを肌で感じている。 また，まずは地域の活性化と，コミュニティの再構築に取組もうという考え方は，地域と学校の距離を近づけた。このことで，大きく二つの効果があった。 ひとつは，地域と学校が様々な協働的活動をすることよって，これまで地区ごとにバラバラで取組んでいた様々な行事や活動がある程度一元化するようになったことである。そのことで，防災活動においても，校区内の自主防災組織の取組みが横へとつながり，面となって校区全体の自主防災組織の活性化にもつながり，連合体の結成へとつながった。 ふたつには，中学生が地域に貢献するという使命感や貢献できた喜びを感じることで，自尊感情の向上にもつながり，防災学習への意欲にも高まりが見られるようになったことである。 この取組みを継続していくことで，防災文化が地域に構築されていくと確信した。これらの様々な取組みは，学校と地域の協働的な防災活動の展開や地域全体の防災文化の構築，さらには安心で安全な町づくりに向けて，全国に発信できるプランとなると確信している。
今後の継続予定	これまでの地域住民との様々な防災活動を通して，地域の更なる課題が見えてきた。 例えば，「避難時の要支援者への手立てがまったく立っていない」というようなことである。今年は，要支援者の避難支援に向けて，中学生に何ができ，何が支援となるのかを考え，できることから確実に実践してきた。 このように，地域の課題に臨機応変に対応できる体制はできてきたので，今後は，その実践を授業に落とし込み，全校生徒の防災対応力を向上させていくことが大切である。 わたしたちのプランが最終的に目指すのは，災害による校区住民の犠牲者０である。そのためには，これまでの取組みをまとめて，「地域ぐるみで行い，授業実践までをパッケージとした防災教育プログラム」の構築を目指していきたい。 そういったプログラムを「南海防災学」と銘打って，全国に向けて発信していきたいと思う。